

調剤学

責任者・コーディネーター	地域医療薬学分野 松浦 誠 特任教授		
担当講座・学科(分野)	地域医療薬学分野、臨床薬剤学分野		
対象学年	3	区分・時間数	講義 12時間
期間	後期		
単位数	1単位		

・学習方針（講義概要等）

特定患者の特定疾患に対し、治療上薬剤が必要な場合に医師によって発行されるのが処方せんであるが、調剤はこの処方せんに基づき薬剤師が医薬品を調製し、患者に交付する業務である。本講義では、処方せんの基本的知識を学習し、さらに、処方される各種医薬品の剤形、調製法、配合変化、投与方法、などについて解説する。同時に、法的に明記されている薬剤師の職能として、医薬品の品質、有効性、安全性確保の責任について理解することを目指す。調剤学は、実務実習の事前学習科目である。

・教育成果（アウトカム）

調剤に必要とされる全般的な知識・技能・態度を修得するために、医薬品の分類と取り扱い、調剤の流れ、処方せんとその監査及び疑義照会、調剤薬監査を中心に学習する。さらに、錠剤、散剤、液剤（内用、外用）、軟膏剤、注射剤などの剤形別調剤方法について解説するとともに、調剤上必要な計算力を身につけるなど実践で対応できる能力の向上を図ることができるようになる。
(ディプロマ・ポリシー：1,2,3,5,6)

・到達目標（SBO）

1. 医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。(☆)
2. 調剤業務に関わる事項（処方箋、調剤録、疑義照会等）の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。(910)
3. 処方オーダーリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。(915)
4. 処方箋の様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。(916)
5. 処方箋の監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。(917)
6. 処方箋を監査し、不適切な処方箋について、その理由が説明出来る。(918)
7. 注射処方せんの記載事項（医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等）が適切であることを確認できる。(921)
8. 添付文書について理解し調剤に必要な情報を読むことができる（警告、禁忌、用法・用量、相互作用、基本的注意事項）。(☆)
9. 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(936)
10. 一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる。(937)
11. 特別な注意を要する医薬品（劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等）の調剤と適切な取り扱いができる。(942)
12. 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。(929)
13. 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。(939)

14. 後発医薬品選択の手順を説明できる。(928)
 15. 計数、散剤調剤に必要な計算ができる。(☆)
 16. 水剤、注射調剤に必要な計算ができる。(☆)

・ 講義日程

(矢) 東 103 1-C 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
10/4	金	1	地域医療薬学分野	松浦 誠 特任教授	調剤業務の基本① 1. 医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。 2. 調剤業務に関わる事項（処方箋、調剤録、疑義照会等）の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。 【双方向授業】【ICT (Google Forms)】 事前学習：到達目標（SBO）の1,2について教科書を読んで説明文を作成する。 事後学習：医療における薬剤師の使命や倫理および調剤業務に関わる事項（処方箋、調剤録、疑義照会等）の意義や取り扱いの法的根拠についてまとめる。
10/11	金	1	地域医療薬学分野	松浦 誠 特任教授	調剤業務の基本② 1. 処方オーダーリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。 2. 処方箋の様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。 【双方向授業】【ICT (Google Forms)】 事前学習：到達目標（SBO）の3,4について教科書を読んで説明文を作成する。 事後学習：処方オーダーリングシステムおよび電子カルテの特徴および処方箋の様式と必要記載事項、記載方法についてまとめる。
10/18	金	1	地域医療薬学分野	松浦 誠 特任教授	処方せんと疑義照会① 1. 処方箋の監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。 2. 処方箋を監査し、不適切な処方箋について、その理由が説明出来る。 【双方向授業】【ICT (Google Forms)】 事前学習：到達目標（SBO）の5,6について教科書を読んで説明文を作成する。 事後学習：処方箋の監査の意義、その必要性と注意点および不適切な処方箋について、その理由をまとめる。
10/25	金	3	地域医療薬学分野	松浦 誠 特任教授	処方せんと疑義照会② 1. 注射処方せんの記載事項（医薬品

					<p>名、分量、投与速度、投与ルート等)が適切であるかを確認できる。</p> <p>2. 添付文書について理解し調剤に必要な情報を読むことができる(警告、禁忌、用法・用量、相互作用、基本的注意事項)。</p> <p>【双方向授業】【ICT (Google Forms)】</p> <p>事前学習：到達目標 (SBO) の 7,8 について教科書を読んで説明文を作成する。</p> <p>事後学習：注射処方せんの記載事項および添付文書の記載事項についてまとめる。</p>
11/1	金	1	地域医療薬学分野	松浦 誠 特任教授	<p>処方せんに基づく医薬品の調製①</p> <p>1. 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。</p> <p>2. 一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる。</p> <p>3. 特別な注意を要する医薬品(劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等)の調剤と適切な取り扱いができる。</p> <p>【双方向授業】【ICT (Google Forms)】</p> <p>事前学習：到達目標 (SBO) の 9, 10, 11 について教科書を読んで説明文を作成する。</p> <p>事後学習：錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否、一回量(一包化)調剤の必要性、特別な注意を要する医薬品の取り扱いについてまとめる。</p>
11/8	金	1	地域医療薬学分野	松浦 誠 特任教授	<p>処方せんに基づく医薬品の調製②</p> <p>1. 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。</p> <p>2. 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。</p> <p>3. 後発医薬品選択の手順を説明できる。</p> <p>【双方向授業】【ICT (Google Forms)】</p> <p>事前学習：到達目標 (SBO) の 12, 13, 14 について教科書を読んで説明文を作成する。</p> <p>事後学習：代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由および回避方法についてまとめる。</p> <p>後発医薬品選択の手順についてまとめる。</p>
12/16	月	4	臨床薬剤学分野	平船 寛彦 助教	<p>処方せんに基づく医薬品の調製③</p> <p>1. 計数、散剤調剤に必要な計算ができる。</p> <p>【双方向授業】【ICT (Google Forms)】</p>

					事前学習：あらかじめ配布する授業プリントを熟読しておく。 事後学習：課題プリントについて回答し期日までに提出する。
12/17	火	2	臨床薬剤学分野	平船 寛彦 助教	処方せんに基づく医薬品の調製④ 1. 水剤、注射調剤に必要な計算ができる。 【双方向授業】 【ICT (Google Forms)】 事前学習：あらかじめ配布する授業プリントを熟読しておく。 事後学習：課題プリントについて回答し期日までに提出する。

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	第14改正調剤指針	日本薬剤師会 編	薬事日報社	2018
参	スタンダード薬学シリーズⅡ-7 臨床薬学Ⅰ	日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会・日本医療薬学会編集	東京化学同人	2017
参	今日の治療薬 解説と便覧	浦辺晶夫、島田和幸、河合眞一 編集	南江堂	2019
参	処方がわかる医療薬理学 2018 - 2019	中原保裕	学研メディカル秀潤社	2018
参	新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 上 薬剤師業務の基本 [知識・態度] 第3版	上村直樹, 平井みどり / 編	羊土社	2017
参	新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 下 調剤業務の基本 [技能] 第3版	上村直樹, 平井みどり / 編	羊土社	2017

・成績評価方法

復習テスト、レポート(20%)、定期試験(80%)を総合的に評価する。

・成績評価方法

<予習復習のポイント>

予習については各自が用意したノートに、各回到達目標の内容に関して教科書を読んでまとめる。復習は予習内容、授業内容の要点・課題について理解できるようにすること。これらの学習には事前学習 45分、事後学習に1時間を要する。

授業開始時に、前回講義内容に関する復習テストを実施する。実施方法は、授業出欠確認を兼ねてスマートフォン等でQRコードを読み取り Google Forms に開設したフォームに必要事項を回答する。こ

のフォームには自由記載欄があり、教員への質問や要望を伝えることができるようになっており、適宜フィードバックする。

インターネット接続およびQRコード読取可能なスマートフォンあるいはその類いを準備すること。講義内容の理解度を確認するためレポート等の課題提出を求めることがある。

講義は原則教科書及び参考書を用いて実施する。必要に応じてスライドを使用することがあるが、ハンドアウトの配布は行わない。補足資料は適宜配布する。

・ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン（Apple MacBookPro）	1	スライド投影のため